

下野市立祇園小学校

1 学校課題

他者を尊重し、互いに学び合い高め合う児童の育成
～国語科における対話的な学びを通して～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

これからの社会を生きる中で出会う課題や困難を乗り越えていくためには、一人の力だけではなく、複数の力を合わせて立ち向かっていく必要がある。そのためには、学校教育において、他者の考えや気持ちを理解し、互いに認め合える子どもたちを育てていくことが重要であると考え、「互いに学び合い高め合う」を、研究主題を構成する一つの視点とした。また、昨年度までの研究では、「自分のよさを生かす」という視点で、コミュニケーション活動に取り組ませてきたところ、授業において、相手意識・目的意識をもたせる工夫をすることで、子どもの主体的な姿が見られるという成果が得られた。今年度は、「他者を尊重する」ことを研究主題を構成するもう一つの視点とし、聞いて考える力を育て、相手の考えや気持ちを理解し、自分の考えを深めることができる子どもを育成していくことを目指していくこととした。

研究教科を国語とし、対話的な学び、特に他者の考えや気持ちを聞くことを通して主題に迫りたい。

(2) 研究の仮説

国語科において、対話的な学びを通して、他者の考えや気持ちを聞いて理解する力を育てることができれば、他者を尊重し、互いに学び合い高め合う児童を育成することができるであろう。

3 研究内容

(1) 目指す児童像の共有

【低学年】友達の考えを聞くことができる児童

【中学年】共通点や相違点を見つけながら、友達の考えを聞くことができる児童

【高学年】友達の考えを聞いた上で、表現力豊かにコミュニケーションできる児童

(2) 具体的方策

①授業作りに関しては、単元計画を工夫し、自分の思いを伝え合う喜びを実感できる言語活動を設定するようにした。

②研修をより充実させるため、講話や授業研究会後は、各自が明日からの授業に生かしたいと感じたことを、「アクション宣言」として書き、見えるところに掲示した。



(3) 授業公開を通した主題への取組

①研究授業

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
9月18日	5年	物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう 「たずねびと」	・物語の全体像を捉えるために、ジグソー学習を取り入れ、友達の読み取ったことや考えを聞くことで、より具体的に物語の内容を想像できるようにする。

②一人一授業公開

学校課題のねらいや具体的方策を踏まえ、6月から1月までの間に国語の授業を実践した。可能な限り学年で同一単元の授業実践とし、効果的な場面で他者の考えや気持ちを聞く学習活動を取り入れることができるよう、協働で単元を見通すよう進めた。



4 本年度の成果と課題

研究初年度ということもあり、まず、第1回目の S&U コラボ事業における研修を「講話」として年度当初に位置付け、皆で大学の先生の話聞いて共通理解を図ってから研究を進めた。

(1) 研究の成果

- ①一人一授業実践に当たって、同一単元の授業を計画することで、学年間でより深く話し合いをすることができた。また、公開授業を参観することで、様々な「聞く力」を使った実践を見ることができた。
- ②授業を計画する際には、単元のねらい達成のために、単元のどこで言語活動を取り入れることが効果的か検討する必要がある、単元計画がとても重要であることが再確認できた。
- ③話し合いをする際には、何を話すのか、何を聞くのか、教師が視点を与えるようにした。友達の話を聞いて、自分なりの反応を示したり、自分の気付いていなかったことに気付いたり、また、自分の意見や考えと比較したりするなどの児童の姿が見られるようになった。



(2) 研究の課題

- ①国語科における「聞く」について研究してきたが、来年度はさらに、「読むこと」における「聞く」に焦点を絞って研究を深めたい。
- ②研究教科は国語とするが、教科横断的な視点に立ち、各教科、各領域でも必然性のある場面で対話的な活動を取り入れて実践を積み重ねていく。
- ③単純な「聞く」についての指導も継続していくことが必要である。集会や普段の授業等、話を聞くことの習慣付けを大切にする。
- ④友達と意見を交流した後は、振り返る時間を取り、自分の考えの変容に気付くことができるようにする。
- ⑤一人一授業に関しては、年度当初に水・木曜日の5校時を公開の時間として時間割作成を工夫し、参観しやすい環境を整えた。また、略案に指導のポイントや見てほしい時間帯を記入することで、短時間の参観でも効果が得られるようにしたが、全学級分の授業を参観することには負担感もあり、参観の仕方については、更に検討が必要である。